

路傍 23、ねたみと怒り

聖書にはねたみは人は 30 回、神は 15 回です。そして神の怒りは 230 回、人の怒りは 90 回です。怒りは神様が人間の 2.5 倍は納得できますが、愛なる神様はねたみは人間の半分もあるというのは意外です。ねたむことは自分にないものが他の人にあるときに隠されたところに起こる思いです。相手が賢い、強い、美しい、能力がある、給料が高い。そうだからと言って相手と競争しても到底勝ち目がない。それでねたむが沸き上がり、どうすることもできない。しかし、神様のねたみが人間の半分もあると言うのは意外です。神がねたまれるのは、すべてのものはご自分が創造されたものでご自分のものであるからです。造られた人間が自分で神を作って神と拝むので嫉み怒られるのです。自分の子どもが他人の大人を自分の親としているなら本当の親は耐えられないはずです。人間は嫉みはどうしたならなくなるか。それは自分の悟りや修養では嫉みはなくなりません。イエスキリストは私のねたみの為に十字架にかかってくださったということを信じる以外に嫉みの心はなくなりません。「もし私たちが、神の光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちには真理がありません。もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」(ヨハネ第一、1:7~9)。嫉みの罪を告白するならイエス様の血は嫉みの心をきよめ、相手を愛するところを与えてくださいます。